

「教育人間科学部所属の学生のための動画型英語教育 統一副教材の作成」プロジェクト報告

Report on a Project for Developing Video-based Supplementary Materials in English Education for Students in College of Education, Psychology and Human Studies

高木 亜希子／ウェイクリング・コーリー／山本 史歩子
Akiko TAKAGI / Corey WAKELING / Shihoko YAMAMOTO

1. はじめに

教育人間科学部の外国語科目は、2018年に大規模なカリキュラム改革を行い、Academic Writing A・Bを除く全ての授業に能力別クラス編成を導入した。2020年に始まったコロナ禍により、授業形態は対面型、リアルタイム型、オンデマンド型と教員間で異なりが生じた。この状況を勘案し、教育人間科学部所属の英語教員3名は、一般教養としての英語という観点から、科目、レベルに縛られず、かつ英語を苦手とする学生でも無理なく視聴できる動画型英語教育統一副教材作成が必要であると考えた。そこで、教育人間科学部附置教育人間科学研究所の2022年度プロジェクト研究助成を受け「教育人間科学部の英語教育促進のための動画型英語教育統一副教材の作成」プロジェクトを実施することとした。プロジェクトメンバーは、高木亜希子（英語教育学・応用言語学）、Corey Wakeling（英語圏の文学）、山本史歩子（英語学）の3名である。

プロジェクトでは、Aogaku Adventures in English Initiative（略称：青学AEI）という名称のYouTubeチャンネルを開設し、定期的なデジタルコンテンツの作成と配信を行った。YouTubeを選択した理由は、動画関連サービスの中で認知率・利用率ともに最も高いからである。例えば、2023年1月に全国の6,423名を対象に行われた調査（NTTドコモモバイル社会研究所、2023）によると、複数の無料動画サービスのうち、YouTubeの認知率は96.5%、利用率は67.7%といずれも最も高かった。また、総務省（2023）の調査によると、特に10代から30代のYouTubeの利用率は、94%以上と高かった。本稿では、プロジェクトの概要、実施内容、副教材を利用した学生に対する調査について報告する。

2. プロジェクトの概要

本プロジェクトの目的は、教育人間科学部の外国語科目を受講する1・2年生のみならず、多様な視点から英語に関する学びを深めたいと考える学習者を対象に、英語・ことばの面白さを体験するための入り口となるようなプラットフォームを作ることであった。ただし、このプラットフォームは、様々な学問分野への興味を喚起し、より高度な学習への入り口としての役割を果たし、最終的には学生の自発的な学びへと展開することを期待した。

コンテンツ作成については、毎回、英語教員3名が各自の専門を活かしつつテーマを決め、英語・ことばにまつわる様々な現象やエピソードなどについてわかりやすく解説した後、それぞれが独自の理論を展開するなど自由に語りあう場とした。具体的には、世界の英語 (World Englishes)、語源 (Etymology)、児童文学、隠喩・換喩 (Metaphor and Metonymy)、英語史などの学術的なテーマから海外の行事やお菓子の由来など気軽な話題まで幅広く取り上げることにした。また、本学部の留学経験者からは、留学準備の体験談や海外の大学のキャンパスライフなどを紹介してもらうことも計画した。コンテンツは、大学の英語教育に相応しい質を担保しつつ、将来的には大学内外からゲストを招き、対談形式で言語や文化について自由に語ってもらう機会を設けることも構想した。動画の長さは、数分程度と短くすることにした。18歳から39歳までの1都2府4県、611名を対象としたYouTube利用に関する調査 (佐々木、2019) によると、よく見たり聞いたりするYouTube動画の長さは、5分以上10分未満が45.5%と最も多かった。したがって、学生に気軽に視聴してもらうためには、短い動画が適切であると考えた。

3. プロジェクトの実施内容

本学部の学生有志2名により動画撮影と編集が行われ、2023年10月現在で合計12本の動画が作成された。動画のタイトル一覧は、表1に示すとおりである。なお、動画のタイトルは編集を担当した学生が考えた。

動画は毎月約1、2回の頻度で、CoursePowerを通じて配信し、教育人間科学部所属の学生であれば誰でも視聴できるようにした。1本の動画の長さは数分程度とし、通学の途中や授業の合間などに無理なく視聴できるようにした。また、視聴者が匿名で自由に意見・感想・要望などを伝えることができるように、各動画にGoogle フォームを設置した。

2022年度は学部内での限定公開であったが、2023年4月から一般公開を始めた。本学部の学生に加え、青山学院初等部・中等部・高等部の児童・生徒、卒業生、英語学習者、英語教員を含む英語に興味を持つ全ての世代の人々を対象に配信することで、本動画が言語や文化に興味・関心を持つきっかけとなることを期待している。

表1 動画のタイトル一覧

動画の回	タイトル
第1回	青学AEI って、何？ [自己紹介]
第2回	英語vs〇〇語？！ [古英語、中英語について知ろう]
第3回	いたずらっ子だけど、やっぱり可愛い。ピーターラビットの裏話！
第4回	「アメリカ・イギリス英語以外はそこまで興味無い」そんな貴方へ！
第5回	クリスマスSP
第6回	高木先生の好きなお菓子は…？
第7回	オーストラリア英語とニュージーランド英語
第8回	お気に入りのスイーツ
第9回	「Vegemite ベジマイト」この発酵食品の味は？！
第10回	海外での初体験
第11回	★特別ゲスト登場★ 一体誰だ！？
第12回	留学経験者にインタビュー！（前編）

4. 学生に対する調査

4.1 調査参加者と調査方法

副教材を利用した学生が、どのような認識をもったか明らかにするために、2023年9～10月に Google フォームを用いた質問紙調査を実施した。調査参加者は、調査に同意した本学部の1・2年生 125名であった。調査内容は、第2回から第11回の10本の動画の中から最も関心をもった動画を3つ 選択してもらい、それぞれの動画について選択した理由を挙げてもらった。また、チャンネルに対する意見や考えを自由に記述してもらった。最も関心をもった動画については、各回で選択された 件数を集計した。自由記述については、回答ごとにコーディングを行い、1つのコメントに複数の 意味内容が含まれる場合には、意味内容ごとに分割してコードを付与した。その後、類似の内容の コードを集めてカテゴリーを生成した。

4.2 調査結果

4.2.1 関心をもった動画

学生たちの関心は幅広く、関心をもった動画として全ての動画が選択された（図1）。件数は動画の回とテーマごとに多い順に並べると、第8回「海外のお菓子」63件、第10回「海外での初体験」57件、第6回「海外のスナック」55件、第9回「ベジマイト」50件、第3回「ピーターラビット」46件、第2回「古英語、中英語」30件、第11回「特別ゲスト」28件、第5回「クリスマス」22件、第4回「米英以外の英語」16件、第7回「オーストラリア・ニュージーランド英語」8件であった。

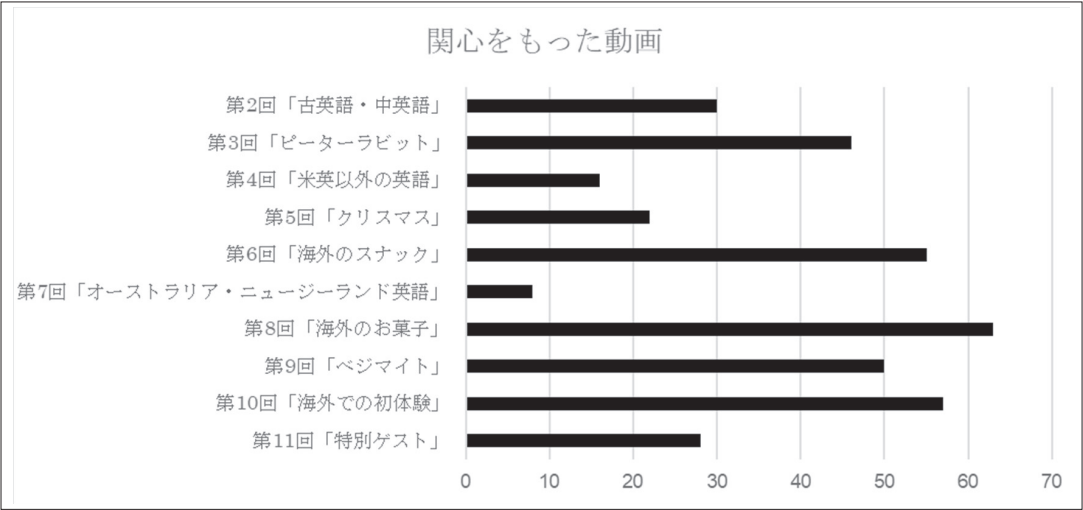


図1 関心をもった動画 (n=375)

4.2.2 関心をもった動画を選択した理由

関心をもった動画を選択した理由について、生成されたカテゴリーは「話題に対する関心」、「知識の獲得」、「興味・関心の喚起」、「親しみやすさ」、「授業の復習」、「その他」であった（表2）。テーマにより、学生が着目している観点に異なりが見られたので、各回の回答の詳細を以下に記す。

表2 関心をもった動画を選択した理由 (n=375)

動画の回	カテゴリー	件数
第2回 「古英語、中英語」	知識の獲得	17
	興味・関心の喚起	12
	授業の復習	1
第3回 「ピーターラビット」	話題に対する関心	24
	知識の獲得	19
	その他	3
第4回 「米英以外の英語」	知識の獲得	6
	話題に対する関心	5
	興味・関心の喚起	5
第5回 「クリスマス」	知識の獲得	14
	話題に対する関心	6
	興味・関心の喚起	2
第6回 「海外のスナック」	興味・関心の喚起	19
	親しみやすさ	15
	知識の獲得	14
	話題に対する関心	7
第7回 「オーストラリア・ニュージーランド英語」	知識の獲得	3
	興味・関心の喚起	3
	話題に対する関心	1

動画の回	カテゴリー	件数
第8回 「海外のお菓子」	話題に対する関心	32
	興味・関心の喚起	26
	知識の獲得	3
	親しみやすさ	2
第9回 「ベジマイト」	興味・関心の喚起	34
	話題に対する関心	16
第10回 「海外での初体験」	興味・関心の喚起	37
	話題に対する関心	12
	知識の獲得	8
第11回 「特別ゲスト」	親しみやすさ	20
	興味・関心の喚起	8

第2回「古英語、中英語」では、「知識の獲得」に関する回答が17件と最も多かった。「日本の古文のように、英語にも古英語・中英語があることを初めて知り、その背景には歴史的な内容が関係していることを学ぶことができたから」、「中英語について全く知識がなかった。最後のホテルとインなんかの違いも街中でよく〇〇インというのをみかけて不思議に思ってたので納得した」など、初めて古英語と中英語に触れ、その背後にある歴史的な内容について学びを得たことが言及された。また、以下のコメントに見られるように、さらに知識を深めたいと考える学生もいた。

全ての情報が自分にとって初めて知る内容だったからです。たとえば、イギリスが戦争に負けたことによりフランス語が優位に立ったことや、そのことにより英語がよりシンプルなものになったこと、またフランス語のほうが綺麗なものに使われることが多いということなど、どれも初めて知りました。他にもどんな言葉でフランス語英語間にシンプル、フォーマルの差があるのか気になりました。

次に、「興味・関心の喚起」に関する回答は12件あり、「川の大きさや物の綺麗さなどで、フランス系英語になるのかイギリス系英語になるのかの違いが生まれているのを初めて知り、驚いた。普段使用している英語は、どのような歴史を辿ってきたのか気になり、以前よりも英語に興味をもった」、「イギリスが戦争に負けたことによって今の英語が簡単になっていることには驚いた。そしてフランス語は調理後で、英語は野生の物というのが興味深く、もっと知りたいと思った」など、言語の歴史に対する関心が高まった様子が見てとれた。「授業の復習」に関する回答は1件のみであるが、授業で学んだ内容に関連しており、「ちょうど、英語概説Bを履修しているため、復習の一つになったため」と回答した学生がいた。

第3回「ピーターラビット」では、「話題に関する関心」に関する回答が24件と最も多かった。「個人的にウサギが大好きで、ピーターラビットも大好きだから、裏話が気になった」、「小さい頃にピーターラビットの本を読んでいたので、もっとピーターラビットについて知りたくなったから」など、以前からピーターラビットに関心を持っている学生が多く、さらに知識を深めるために動画を選択

したと推察される。実際に動画を視聴した結果、作者の物語に対する工夫（「可愛いだけでなく作者の工夫が凝らされていたことに驚いた」）や、うさぎの種類とその英語表現の違い（「ウサギと言っても、rabbitとMarch hareの2種類があるということを知ることができたからです」）などについて、新たな知識を得て興味深いと感じている様子が見える。言い換えれば、これらの学生は元々興味を持っていた話題について新たな知識を獲得し、その内容に満足しているようであった。

第4回「米英語以外の言語」は、全体では16件と多くはなかったが、「知識の獲得」に関する回答は6件あり、以下のコメントからは新たな知識を得たことで、自身の英語の話し手としてのあり方について考察できたことがわかる。

英語を母語として話すネイティブの人口よりも私たちのように第二言語として話す人口の方がはるかに多いことに驚いたことが1番の理由である。また今後ネイティブとノンネイティブの比率は1:8になると言われていて、今まで当たり前のようにネイティブを手本にすることが正しいと思っていたが、他のノンネイティブとの英会話にも役立つような学びができればいいなと新しい学びがあったからである。

「話題に対する関心」、「興味・関心の喚起」に関する回答はいずれも5件で、以下の意見に見られるように、将来小学校教員として外国語科を教えることを想定し、英語について考える学生もいた。

実際、私もアメリカ英語以外にそこまで興味を持っていなかったので、もっと他の英語も学んでみたいと思うきっかけになりました。まだ基礎も全然ですが…。私が小学校の先生になった時どんなふうに英語を教えたらいいいのかなと思いました。

第5回「クリスマス」では、「知識の獲得」に関する回答が14件と最も多かった。この回では、「Merry Christmas」という表現が、宗教の信仰の違いにより適切でないことについて言及されたため、「キリスト教を信仰する青学の学生としてとても重要な情報だったため」や「クリスマスがキリスト教であることは知っていたが、Merry Christmasという表現が使われなくなっていることは知らなかったため驚いた。同時に日本は宗教の関心がやはり低いんだと改めて実感できて面白かった」などのコメントが寄せられた。

第6回「海外のスナック」と第8回「海外のお菓子」は、特に短い時間の動画であり、作成者の学問分野とは離れて、英語が苦手な学生にも言語や文化に関心をもってもらうことを意図して作成された。これらの動画では、身近な英語表現も紹介されており、学生にとって視聴しやすかったようである。全体で、第6回は3位、第8回は1位と支持率が高かった。第6回では、動画のタイトルに教員名が記載されていたため、「高木先生の好きなお菓子を知れるというタイトルに惹かれたから」など、「親しみやすさ」に関する回答が15件あった。また、「お酢と塩のチップスの味がとても気になった。文化の違いを感じられたから」と身近な話題から文化に目を向け「興味・関心の喚起」（19件）がされていることが推察された。「chipsとcrispsは名前は似ているけど、実物は全く違うもの

を表すということを学ぶことができたと興味深かったです」など、英米の単語の使い方の違いを知ったことについて、「知識の獲得」として言及した回答も14件あった。

第8回では、身近なお菓子に関する話題自体に関心をもった学生が多く、「話題に対する関心」に関する回答が26件あった。また、「Tim Tamという語感がかわいいな」と思い印象に残りました。動物をイメージして形作られるお菓子は多いけれど、実際にいた馬から名前をとるのは珍しいと思った」などお菓子にまつわる情報を得たり（「興味・意欲の喚起」、26件）、「Brain freezeという英語でなかなか表現しづらい日本語を的確に訳している表現が興味深かったから」など、英語表現を知ったり（「知識の獲得」、3件）したことと言及するコメントがあった。

上記2つの関連動画として、第9回「ベジマイト」も第4位と支持が高かった。この食品について初めて聞いた学生も複数おり、「タイトルを見て、初めて見る食べ物で興味を持ったから」など「話題に関する関心」が16件あった。動画視聴後、「Vegemiteを初めて知りました。英語で聞くことで、Vegemiteの説明や味の言い方を英語を通して聞くことができ、興味深く、勉強になりました。」などのコメントに示されるように、この食品に対して多くの学生が「興味・関心の喚起」（34件）がなされたことが推察される。第6、8、9回の動画に対するコメントからは、異文化の食品や食文化に関する動画が学生たちの興味を引き付け、英語を通じて新たな知識を得る機会として評価されていることがうかがえる。また、動画のタイトルや内容が学生たちの関心を引き付ける重要な要素であることが示唆される。

第10回「海外での初体験」は、全体で第2位と支持率が高い動画であった。「私が今年の夏初めての海外を経験したから、同じような経験をしたかすごく気になりました」、「海外に行ったことがないから、海外ならではの経験などが気になったから」などのコメントから、海外渡航経験者と未経験者の両方が「話題に関する関心」（12件）に基づき、本動画を選択していたことがわかる。また、動画視聴後には、「私は海外に行った経験が少ないので、このような話にはとても興味があります。先生方の経験を聞くことができ面白かったので選びました」、「先生方の海外での出来事にお話が面白く、色々な国に行ってみたいと興味が湧いたから」といったコメントから、海外の生活や文化に「興味・関心の喚起」（37件）が表れている。この動画は学生たちにとって、異文化体験や海外での生活に関する興味を刺激する機会となったことが示されている。また、動画内で教員が自身の経験を共有することが、学生たちの興味を喚起する要因であることがわかる。

第11回「特別ゲスト」は、初めてゲストを招いた回であり、教員の兄弟に日本の印象について、インタビューする形式であった。教員の家族が登場したこと自体に驚きを表明し、動画に「親しみやすさ」（20件）を感じ、「日本にきたことある回数が少ない人に話を聞く機会は少ないから」など日本での体験を聞くことで、海外の人が日本に抱く印象に興味をもった学生もいた（「興味・関心の喚起」、8件）。この回は異なる視点から日本に関する洞察を提供し、学生たちにとって新しい情報源となった。

4.2.3 YouTubeチャンネルに関する意見

YouTubeチャンネルに関する意見125件を意味内容に分けたところ、178件に切片化された。大

きく分けて「動画の内容」、「動画の見やすさ」、「動画の言語」「その他」の4つのカテゴリーに分類された（表3）。

表3 YouTubeチャンネルに関する意見（ $n=178$ ）

カテゴリー	サブカテゴリー	件数
動画の内容	興味・意欲の喚起	57
	知識の獲得	19
	話題の豊富さ	11
動画の見やすさ	適切な動画の長さ	31
	教員運営による親しみやすさ	14
動画の言語	日英言語の使用	9
	字幕があること	8
	リスニング学習	6
その他	動画に関する提案	14
	その他	8

1つ目のカテゴリー「動画の内容」は、「興味・意欲の喚起」（57件）、「知識の獲得」（19件）、「話題の豊富さ」（11件）の3つのサブカテゴリーから構成されている。「興味・意欲の喚起」は、全てのカテゴリーで最も件数が多かった。例えば、「堅苦しい話ではなく、楽しみながら自然と異文化について学ぶことができる内容だと思います」、「海外旅行に行った経験がありませんので、海外での情報や文化を知ることができて面白かったです。また、言語について文法の面ではなく様々な角度から知ることができて興味深かったです」、「僕は歴史が好きで社会科専攻にしたので、世界史と絡めた言語の話はとても面白く聞くことができました」などのコメントがあり、言語や文化など様々な観点から、各自の関心に応じて、興味・意欲が喚起されていることがわかる。同時に、「これらの動画を通して、自分が知らない知識を知れて良かった」など新たな「知識の獲得」についても言及があった。また、例えば「このようなチャンネルを見るのは自分の知らなかった知識を得ることが出来るため、とても面白いと思った。古英語や中英語について気になったので調べてみようと思った」というコメントからは、さらに掘り下げて探究したいという学生の意欲が表れており、作成者の意図どおり学問の入り口としての役割も果たしていた。さらに、「目を引くトピックがたくさんあって、自然と海外の文化を知ることができるので、他の動画も見てみたいです」、「今回初めてAEIチャンネルを視聴したが、英語に関することから海外の食文化などまで幅広く取り上げられていることを知りこれからは視聴してみたいと感じた」というコメントからは、「話題の豊富さ」も学生の「興味・意欲の喚起」に関連があることが見てとれた。

2つ目のカテゴリー「動画の見やすさ」は、「適切な動画の長さ」（31件）と「教員運営による親しみやすさ」（14件）の2つのサブカテゴリーから構成されている。「適切な動画の長さ」については、「比較的短い動画だったため、見やすくていいと思いました」、「一つの動画がちょうどいい時間で、見やすい」など、動画の短さが評価されている。次に「教員運営による親しみやすさ」については、「動画に出演されていた先生方が三人とも、これまでの授業でお世話になったことのある先生方だっ

たので、なんだか先生同士が話をしているのが面白かったです」や「先生達の普段の授業と違う一面を見ることができるため、見ていて楽しかった」などのコメントがあり、学生たちは普段授業で接する教員が動画に出演していることで、親しみやすさを感じたようである。

3つ目のカテゴリー「動画の言語」は、「日英言語の使用」(9件)、「字幕があること」(8件)、「リスニング学習」(6件)の3つのサブカテゴリーから構成されている。「日英言語の使用」と「字幕があること」については、「動画内では英語と日本語の両方を使っていて、字幕もついていたから理解しやすかった」や「日本語を交えて会話を進めてくださったり、字幕があるおかげで英語が得意ではない私でも自然に聞き取ることができ、楽しく視聴できました」というコメントにあるように、日英言語の使用と字幕の提供の両方が学生にとって理解しやすさをもたらしたことが推察できる。英語の発話については、「ネイティブの方の英語を聴いたりするリスニングの練習にもなったと思います」というコメントや「YouTubeの字幕機能を利用して、英語でお話されているパートは日本語字幕の有り無しを切り替えられるとリスニングの練習になるのかもしれないと思いました」というコメントがあり、今後の「リスニング学習」にも役立つ要素として評価された。また、以下のコメントに見られるように、音声と字幕の時差が「リスニング学習」に役立つという意見も出された。

動画の中で英語のセリフがある際に、その和訳字幕が英語のセリフに遅れて（後出しの形で）表示されるのが、とても学習に効果的だと感じました。同時に表示されてしまうと、和訳を即時に理解してしまうので自ら英語の会話を聞き、その意味を考える機会が減ってしまいます。しかし、英語のセリフと和訳字幕に時差があることで、その数秒のタイムラグの間に英語でなと言ったのかを自分で考える（予想する）ことができます。

4つ目のカテゴリー「その他」は、「動画に関する提案」(14件)と「その他」(8件)から構成されている。「動画に関する提案」として、「先生方が日本語で話しているところを英語字幕にしてもらえると、さらに勉強になるのではないかと思います」などの言語面に関わる提案と「学生や留学生も会話に参加したらもっと盛り上がりそうだなと思った」、「英語圏で使える日本では習わない便利な英語集！みたいな動画があったらおもしろそうだなと思いました」など内容面に関わる提案があった。「その他」は、「Nice channel」、「とてもいいと思います」など、他に分類がしにくい短いコメントであった。

5. おわりに

本稿では、プロジェクトの概要、実施内容、副教材を利用した学生に対する調査結果について報告した。学生に対する調査結果からは、幅広いテーマに関して、主に「興味・関心の喚起」と「知識獲得」の観点で、動画が有益であることが示された。動画の長さは、適切であることもわかった

が、短い動画で伝えられることは限られている。各自の専門外の身近なテーマの動画に対して想定以上の支持があったが、今後は短い動画の中で伝えるべき内容を精査しながら、専門分野に関連したコンテンツを充実していくことで、学問への入り口となるように留意したい。また、本学の学生や卒業生たちに協力を依頼して、海外留学の様々な経験を共有してもらったり、学内外の研究者たちをゲストとして招くことで、アカデミックなテーマの幅を広げたい。

引用文献

NTTドコモモバイル社会研究所 (2023). 『2023年一般向けモバイル動向調査』

<https://www.moba-ken.jp/project/service/20230515.html> (2023年9月30日アクセス)

佐々木裕一 (2019). 「スマートフォンでのYouTube視聴実態：アーキテクチャに着目した基礎的分析」

『コミュニケーション科学』 50, 87-111.

総務省 (2023). 『令和4年度 情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書』

https://www.soumu.go.jp/iicp/research/results/media_usage-time.html (2023年9月30日アクセス)